

大道芸人 Kei の今夜もジャグラーズハイ！

Vol.25 2014 12 03 発行

演技作りは創作ダンス！？

前回初めて発行した「大道芸人Keiの今夜もジャグラーズハイ！特別号」

音楽に合わせた演技の作り方ということで、音楽に合わせた演技の作り方の大まかな部分を解説させて頂きました。今回はその続編ということで、実際に中身の作り方について考えていこうと思います。

まずみなさんに伝えたいことのひとつとして、音楽に合わせた演技（ルーティンと言ったりもします）を作るのは決してつらい作業ではありません。

「え〜？大変じゃん」「自分なんて3個のボールがやっとだしムリ〜」「何からしたらいいかわからないし〜」
こんな声をよく耳にするのですが、心配ありません！

短い曲に合わせた演技、それこそ1分とか90秒とかの演技であれば

ボールひとつでも作る事が出来ます！ ドン！

うそーん。 と思ったそこのあなたはダメされたと思って挑戦してみてください！

きっと得られる経験値はデカイですよ〜！

それではここで前回の特別号の音楽に合わせた演技のレベルをおさらいしましょう

レベル① BGMとして流すだけ

これはただ曲が演技の後ろで流れているだけです。キメにも合わせませんし音楽が足りなくなったり余ったりします。音楽をかける意味はあまりない状態と言えます。

レベル② 最初と最後だけ合わせる

曲の長さは分かっていて、最後は曲の終わりに合わせて終わることが出来る状態です。少なくとも演技しながら音楽を聴けていないとできません。

レベル③ 曲中のキメに何かのアクションで合わせることが出来る

曲を聴けているので最初と最後もきっちり合わせて演技らしくなってきます。

レベル④ 曲のテンポや細かいキメにもあった動きが出来る

曲中の道具のチェンジやフォーメーションの移動なども無駄なく考えられていて、曲のテンポや細かいキメにもあった動きになっている状態です。ここまできたら演技は7割完成といった感じです

レベル⑤ レベル④に加えて実際に観客がいることをイメージした動きが出来る

ボールひとつで演技を作る場合。大切になってくるのは難しいテクニックを入れることではありません。

音楽にしっかり合わせた動きをすることのほうが重要になります。

このレベルでいうと③〜⑤くらいになるように意識して演技を組み立てていく必要があります。

ジャグリングの場合、派手な技だと音楽にあってなくてもそれなりに観客からの反応を得られたりします。それで技から技へとつないでいくと、初心者のうちは技が足りなくなりがちです。そして、1曲の演技の中でだんだんと技のレベルが上がっていき、終盤の方では技のインフレが起きて失敗のオンパレードなんてことも。

挑戦的な技ばかりではいい演技にはなりません。安定した技術を演技には組み込んでいくことが大切になります。

僕は高校のジャグリング部でジャグリングの演技指導をしたりしています。生徒が作ってきた演技を見てあれこれと指導するのですが、あまりに失敗が続くようだと「もう一回最初からやってみて」と指示することがあります。それで、全く同じミスをするようなら内容を変えるようにアドバイスしたりします。

難しい技に挑戦することはいいことです。でも演技を作るなら**成功率50%!**ここがボーダーラインです。

ここでやっとタイトルです。演技作りは創作ダンス！

僕が小学生の頃、体育で創作ダンスという授業がありました。数人のチームに分かれダンスを作るというものです。音楽を決め、テーマを決め、自分たちでふりを付けていきます。

これ実はジャグリングの演技の作り方ととてもよく似ています。

道具を持たない、しかも集団の演技のどこがジャグリングと似てるの！？って思うかもしれません。

それが、けっこう近いところあるんです。

似ていることその① 音楽の重要性

ダンスで音楽と動きがあっていなかったらまったく面白くないものになってしまいます。ダンスの演技は最低レベル④が求められています。逆に言えば音楽のポイントにしっかりあった動きを作れば、動き自体の難易度はそこまで高いものでなくても大丈夫だったりします。

音楽にしっかりあって動いているってこと自体が難しいことだと見ている人にも伝わるからです。

似ていることその② 雰囲気合わせることの重要性

曲のテンポや細かいキメだけでなく、歌詞の意味や曲の雰囲気などにも注意して演技が組まれるところ。

例えば、曲がゆっくりになるところでは流れるような動作で曲の雰囲気に合わせ、激しくなるところではハッキリした動きで曲に合わせて動くなどが演技にメリハリをつけて見せるポイントです。

それでは実際に演技を作ってみましょう。

課題曲はそうですね・・・笑点のテーマ（1'31"）なんてどうでしょうか

<https://www.youtube.com/watch?v=hqbelOtrvc8> 曲が決まったら、まずは材料を揃えます。

ここでいう材料とはボールひとつで何が出来るかっていうこと。

右手から左手へ投げる 左手から右手へ投げる 足の下から投げる 高く投げる 上からつかむ 地面を転がす 二本指でキャッチ 腕の上を転がす 頭の上に乗せる 膝ではねさせる 背中の中から投げる などなど

これらは演技を構成するときの骨組みであり肉でもあります。

大体材料が出そろったら、ここで一度音楽を聴きこみます。よくよく曲を聴いてみると細かい音もキメに使えとか、テンポが変わるところではこの動きが合いそうだとかがなんとなく見えてきたりします。

自分がどんな材料をもっているか、分かってきたところで今度は曲に合わせて動いてみます。

ココではまだ道具は持ちません。持っているフリで動いていきます。

大体こんな感じで動こうという大まかなプランが出来たら道具をもってチャレンジです！

これでいきなり演技が完成したらいいのですが、なかなかそういうわけにもいきません。

そこで、ここからはもう少し細かく演技を作っていきます。

音楽をいくつかのパートで区切り、パートごとに動きを決めていきます。大きめのキメがあるところまでで切ると分かりやすいと思います。そこに材料を並べて曲に合わせた動きを作っていきます。

完成した演技を【文章】に例えると、動きの材料を並べたものは【文節】 動きの材料は【文字】ということになります。

演技の材料としては【ルーティン】>【連続した動き・技】>【ひとつの動き・技】の順で小さくなります。

細かい塊をまとめて、大きくしていきながら、音楽のパーツと組み合わせていきます。

音楽も【曲】>【フレーズ】>【音】となっているのでフレーズには連続した動き・技を合わせていきます。

これで演技を作ることは大体できると思います。

ただ、演技が完成したら終わりではありません。繰り返し練習していくうちに技のつなぎや、動きがよくなっていきますし、曲への理解も深まってきます。実際に観客に観てもらおうのも重要です。観客の反応を感じないと分からない演技のいいところ、微妙な部分もあったりします。とにかく作っては壊しての繰り返し！それで演技が強くなるのです！これであなたもジャグラーの入り口に立っていますよ。

ディープな世界へようこそ！

文責：大道芸人 Kei